

道の駅整備事業の方向性について

令和5年6月の牛久沼越水以降、立ち止まっておりました龍ヶ崎市の「道の駅整備事業」につきましては、中止とする判断に至ったことをご報告いたします。

本市の「道の駅整備事業」については、護岸改修工事における想定以上の軟弱地盤、不測の埋設物の発覚、それらに伴う事業費の増額が見込まれるなど、様々な課題により事業が停滞しておりました。

令和4年1月に私が市長に就任するとともに、選挙公約に掲げた「『道の駅整備』の再検証」を実施し、道路利用者の休憩の場、牛久沼の自然環境が享受できる場として、令和5年3月24日に「公設による物販・飲食等の施設を整備しない『縮小した道の駅』を整備する」という方向性を提示いたしました。

しかし、令和5年6月2日から3日にかけて発生した台風2号及び梅雨前線の影響を起因とする大雨により牛久沼が越水し、龍ヶ崎市稗柄町や佐貫町で床上浸水や床下浸水の被害が発生しました。

道の駅整備予定地内での浸水や堤防の越水は確認されなかったものの、市民の生命・財産を守ることを最優先に、整備予定地周辺を含めた牛久沼の治水、安全性の確保に取り組むこととして、道の駅整備は一旦立ち止まることを判断いたしました。

その後、茨城県が設置した「牛久沼越水対策検討委員会」の検証において、牛久沼の越水は広域的な地盤変動による堤防の沈下が原因であると結論付けられるとともに、地盤沈下は現在も進行していることが新たに示されたところです。この「牛久沼越水対策検討委員会」が示した地盤沈下に対応するには、「設計の見直し」、「盛土や地盤改良などの追加工事」が必要となり、事業費の増額は避けられない状況となりました。

一方、本市の財政状況については、中期財政計画を踏まえた令和5年10月時点での財政収支見通しで、令和8年には歳入歳出の収支差引がマイナスに転じる見込みとなっており、近年の人件費や物価などの上昇に対応しながら、小中一貫校や新保健福祉施設の建設など、「教育」や「福祉」といったまちづくりの根幹となる分野の整備にも対応していかなければならず、決して余裕がある訳ではありません。

さらに、当該事業においては、市議会議員の皆様からも、現計画の道の駅に対し、整備コストや魅力低下を懸念する意見が寄せられ、令和5年12月には、議会報告会での市民意見等を踏まえ、市議会から事業中止を含めて、適切な判断を求める要望書が提出されました。

以上のことを勘案し、現計画に基づく道の駅整備事業は中止することといたします。

なお、牛久沼の活用については、多くの市民の皆様から期待されているところであり、本市といたしましても、貴重な地域資源であるとの認識に変わりはありません。

改めて、市民や市議会議員の皆様と対話の機会を設けながら、検討して参りたいと考えておりますので、引き続き、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

龍ヶ崎市長 萩原 勇